

同 村 長 仲 裁 人	玉 井 和 三 市
原町村大字麻生 同	窪 田 章
同 村 大 字 同	相 田 梅 太 郎
北伊豫村大字徳丸 同	遠 藤 良 貞
松山市大字西町 同	御 手 洗 忠 孝

このほかにも、一九〇九(明治四二)年のころ、中村・森・本郡の百姓三〇〇人がみの・かさを付けて身を固め、手に手に鋤や棒を持って築分池に勢ぞろいをし、当時の年行司藤井丑松らを攻め上げようとした。それを耳にした丑松の親友は驚がくして早速三秋に飛んで行き事の重大さを詳しく話したので、年行司も直ちにその対策を練り、また時の村長永井貞市の仲裁によって流血の大事にはいたらなかった。

以上述べてきたように、水利に関しては幾多の難問題を抱えてきたが、大谷池などの大築造で水利問題は大いに緩和された。その後、園芸の発達とともに農業用水の需要は大いに増したが、道前道後平野農業水利事業の完遂と経営的・技術的進歩に伴い、本市においても三秋、森の一部を除いて果樹園全域にかん水施設の完備を見こが、今日では施設は廃せられた。

#### 4 道前道後平野農業水利事業

道前・道後平野地域の用水不足を解消するため、昭和三二年度に着手した国営農業水利事業(以下「二期事業」という)は、発電・工業用水・農業用水の確保の目的で、昭和四二年度に有効貯水量二、六八〇万トンの面河ダムが完成した。更に、これに附帯して実施

された県営事業によって、末端の受益地まで農業用水の円滑な補給が行われるようになり、現在伊予市では水田約七五七畝・畑約二二七畝がその恩恵を受けている。

しかし、一期事業完了後は、農業情勢も大きく変貌し水需要も変化が生じてきた。その主要なものは次のとおりである。①田植機の普及・兼業の進行で、用水の短期集中による水不足、②都市化の進展に伴う地下水の水位の低下、③ほ場整備が進むにしたいが、用排水分離による減水深の増大、④転作の普及による通年給水の要望の増大など、また、施設についても完成後約二〇年近くにもなり、老朽化・旧式化、更に安全性の低下が目立っている。

このようなことから農業用水の需要構造の変化に対し新規水源の確保を図ることと、施設の近代化・合理化を図るため、国営二期事業として、道後平野側の農地に用水を供給する佐古ダム、道前平野側の農地に用水を供給する志河川ダムの整備が進められている。

**武知 政右衛門**

酒造業者であり、地域振興に貢献した人

一八七三―一九三九(明治六―昭和一四)年

一八七三(明治六)年二月一六日、中村に生まれた。酒造業を営むかたわら、北山崎村村会議員となり村政に力を注いだ。

特に、郡中へ長浜線の郡道改修工事に当たっては、その中心となってこれに尽力し、完成の結果は地方民に多大の交通の便を与えることになった。また、学校建築委員として教育面に、あるいは北山崎村信用組合理事として産業面にも種々貢献した。

昭和一四年三月二四日、六七歳で没した。

**武智 惣五郎**

活気に満ちた地域のリーダー

一八八六―一九六二(明治一九―昭和三七)年

一八八六(明治一九)年一月一四日、上三谷村に生まれた。同四〇年十二月、南伊予村書記となり、更に同四四年九月収入役、その後助役となり、一九二二(大正一〇)年一〇月には村長となった。

村政に専念するかたわら、伊予郡農会評議員、同警友会顧問、同購買組合連合会長、愛媛県樟模範林保護組合長、産業組合中央会愛媛支会の評議員として郡や県の事業に尽力するとともに、村の産業組合や養蚕組合、農会などの会長または組合長として各方面に活動し、村の中心となって村政に当たっていたが、一九二六(大正一五)年七月、村長の職を辞した。

昭和四年一二月、再び村長となり、昭和二二年一二月までその職

にあつて村内はもとより広く地方行政に尽くした。この間、伊予郡町村会長・全国町村長会理事などを務め、昭和一五年一二月からは県会議員として県政に参与した。昭和三〇年伊予市の発足に伴い、伊予市初代の市議会議長として市政面にも尽力した。

こうして長い間、公職にあつて地方行政面に力を注いだ。この間特筆すべき功績は大谷池の開発であつた。大谷から流れている大谷川は日頃は水に乏しいが、一たび大雨が降れば洪水となり田畑や作物を流して人々を苦しめた。また、大谷川に沿った地帯には六百数十畝の水田があつて、付近の池から灌漑用水を取っていたが、日照りが続けば池の水は枯渇して干ばつを引き起こした。そこで大谷池の開発を考え、一〇年余の苦心を重ねて昭和六年その許可を受け、翌昭和七年一月から工事に着手した。

その後、種々の難関を乗り越え、苦難を克服し、一四年の歳月をかけてついに昭和二〇年三月に完成した。この大谷池築造の陰には、氏の不屈な意志と揺るぎない卓見が秘められている。

大谷池の堤防には氏の長年にわたる功労とその徳をたたえて頌徳碑を、また、伊予小学校校庭には胸像が建てられている。なお、昭和三四年には、藍綬褒章が授けられた。

昭和三七年八月三〇日、七七歳で没した。

**武智 勝丸**

石鎚神社中興の神官・偉大な教育者

一八六三―一九二八(文久三―昭和三)年

一八六三(文久三)年九月二日に、南伊予村の廣田神社の社家